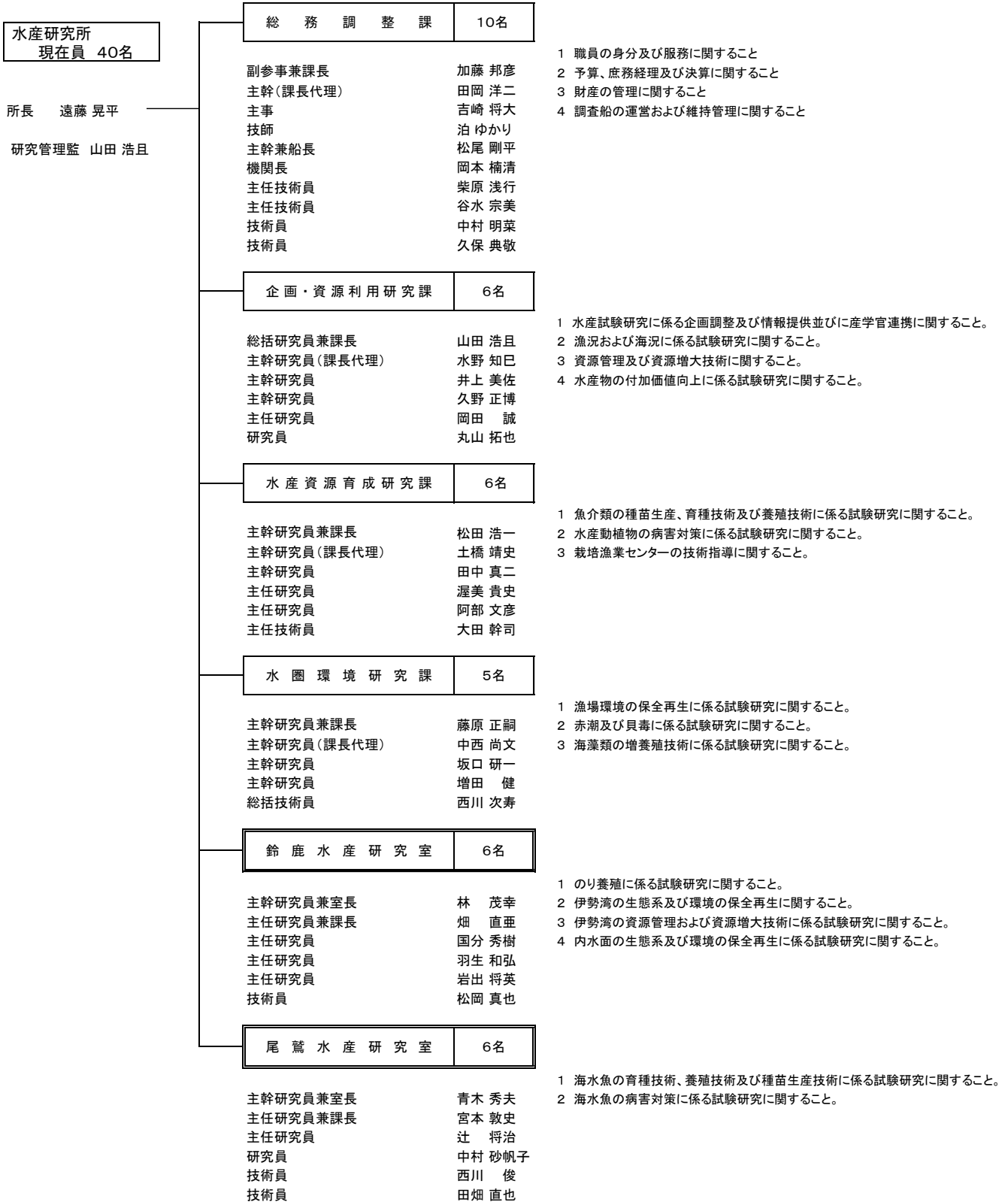


平成26年度

組織・人員配置等 事業概要

三重県水産研究所

平成26年度 水産研究所組織体制と事務分掌



平成26年度における水産研究所の取組み

事業名	予算額 (千円)	事業概要	担当	年度
1. 水産研究所予算				
(施策 31104) 水産技術の研究開発と移転				
●水産関係県単経常試験研究費				
① 革新的イセエビ幼生飼育技術の開発	1,528	イセエビ幼生飼育の安定化と効率化を進めるとともに、抗生物質を使用しない飼育技術を開発する。	水産資源育成研究課	H26～28
② 英虞湾漁場環境調査	2,542	英虞湾の水底質環境ならびに餌料プランクトンや赤潮プランクトンの消長等を調査し、英虞湾プランクトン速報として関係機関に情報提供するとともに、漁場環境の長期変動を把握する。【志摩市補助】	水圏環境研究課	H25～29
③ 生物多様性・カーボンオフセットプログラム構築に向けた干潟・藻場再生効果の評価	957	干潟や藻場の再生等に企業が参加・支援しやすくするためのカーボンオフセット制度の導入に向けて、干潟やアマモ場のもつ水質浄化機能やCO ₂ 固定能を定量評価する。	鈴鹿水産研究室	H23～26
④ アユの減少要因の解明に関する研究	743	アユの生息環境を調査し、減少要因を把握するとともに、その軽減策を検討する。	鈴鹿水産研究室	H25～27
●水産業技術高度化研究開発推進事業				
① 地域特産化をめざした二枚貝垂下養殖システムの開発	1,737	着底基質を用いて天然採苗したアサリ稚貝を、いかに垂下したカゴに收容し、養殖に適した水域や水深の探索、カゴ資材・稚貝の收容密度を検討し、実用的な垂下養殖方法を開発する。【農林水産省農林水産技術会議委託】	鈴鹿水産研究室	H24～26
② アサリ資源回復モデルの開発と実証	3,200	稚貝の成長・生残に好適な海域を探索するとともに、そこへの稚貝の移植により漁獲量が増加することを実証する。【水産庁委託】	鈴鹿水産研究室	H24～26
③ 伊雑の浦環境改善技術効果把握調査	2,000	漁場環境が悪化している伊雑の浦において実施される各種の環境修復の取り組みに関して、その効果を調査し評価する。【志摩市委託】	水圏環境研究課	H25～27
④ 海女漁業の再興を支援する複合魚種の高度生産システムの開発と革新的販売方法の開発と導入	7,891	大型アワビ種苗の放流による地撒き式生産システムの導入を図るとともに、アワビの蓄養環境の最適化による蓄養中のへい死軽減対策を確立する。【農林水産省農林水産技術会議委託】	水産資源育成研究課	H25～27
⑤ クルマエビ放流技術向上対策調査	575	的矢湾～伊勢湾口外域を対象に、成長段階や季節により多様な生息場所を利用するクルマエビの生活史に対応した効果的な放流技術を開発する。【志摩市委託】	企画・資源利用研究課	H25～27
⑥ 優良アコヤガイの導入等による真珠品質の向上と安定化の実証研究	11,500	水産研究所が開発した閉殻力の優れたアコヤガイ(スーパーアコヤガイ)を養殖現場へ導入し、生産される真珠に占める高品質真珠の割合を向上させる。【独立行政法人 農業・食品産業総合技術研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター委託】	水産資源育成研究課	H26～27
⑦ クロマグロ種苗生産に関する基礎的研究	650	県内でクロマグロの人工種苗生産が可能か判断するための予備的調査および飼育試験を行う。【公益財団法人 岡三加藤文化振興財団委託】	尾鷲水産研究室	H26
⑧ 二次的自然「里海」の短寿命生態系におけるブルーカーボン評価に関する研究	4,670	内湾域の海藻やプランクトン、貝等の食物網を介した炭素固定や、生物の死後に堆積物中に蓄積される難分解性有機炭素といったカーボンシンク機能を定量化し、ブルーカーボンとして評価できるかを検証する。【環境省委託】	鈴鹿水産研究室	H26～28
⑨ レギュラトリーサイエンス新技術開発事業	800	従来の貝毒監視体制の問題点を洗い出し、新たな貝毒監視体制へと更新するために必要な知見を収集する。【農林水産省消費安全局委託】	水圏環境研究課	H26～28
⑩ 研究基盤向上	866	外部評価委員による研究評価委員会開催等を行う。	企画・資源利用研究課	
●資源評価調査事業費				
① 資源評価調査事業	15,211	漁獲統計資料の解析、生物測定、調査船調査の結果により、イワン類・アジ・サバ類・ブリ・マダイ・スルメイカ・トラフグ等の資源量を評価し、漁獲可能量(漁獲割当量)算出の基礎資料を収集する。【水研センター委託】	企画・資源利用研究課	H12～
●日本周辺高度回遊性魚類資源調査事業費				
① 日本周辺高度回遊性魚類資源調査事業	7,573	マグロ類やカツオなどの高度回遊性魚類について、国際的な資源管理体制の確立が必要となっている。そのため、国を中心とした全国組織のもとに、漁獲データや生物調査結果等の収集・解析を行う。【水研センター委託】	企画・資源利用研究課	H13～
●熊野灘沿岸域における有害プランクトン優占化機構に関する研究費				
① 熊野灘沿岸域における有害プランクトン優占化機構に関する研究	2,454	熊野灘沿岸域における有害プランクトンの長期的な変遷と発生環境を把握すると共に、有害赤潮のシード供給メカニズムを解明し、有害赤潮による漁業被害の防止に資する。【水産庁委託】	水圏環境研究課	H25～29
●新しい真珠養殖技術実証化事業費				
① 新しい真珠養殖実証化事業費	3,400	アコヤガイのピース貝の改良、白色系系統の作出、養生技術の効率化と普及などの取り組みを実施し、三重県の真珠養殖を支援する。【みえの真珠養殖再生支援協議会委託】	水産資源育成研究課	H24～27
●みえの養殖水産物計画生産体制構築事業費				
① マガキの計画生産に向けた養殖実態把握と高品質化事業	473	安定的な天然採苗技術や早期生産種苗を用いたマガキ当年養殖技術の開発・普及に取組み、健全な県内産マガキ種苗の供給やマガキ養殖業の収益性改善を図る。	水圏環境研究課	H26～27
② みえのもうかる養殖ビジネスモデル確立事業	6,548	養殖魚の導入実態を把握・分析し、最適な複合養殖の組合せ(ポートフォリオ)を明らかにする。複合養殖の対象種について、養殖生産上の課題を解決するための技術開発に取り組む。	尾鷲水産研究室	H26～28
●水産業試験研究管理費				
① 管理費	50,464	水産研究所の施設の管理運営を行う。	総務調整課	
●水産業研究施設機器整備費				
① 水産業研究施設機器整備費(大規模臨時的経費)	34,668	水産研究所調査船「あさま」の中間検査を実施する。	総務調整課	H26

事業名	予算額	事業概要	担当	年度
2. 水産資源課、水産基盤整備課、フードイノベーション課等予算				
(施策11302) 農水産物の安全・安心の確保				
●消費者に安心される養殖水産物の生産体制整備事業費（水産資源課執行委任）				
① 養殖衛生管理体制整備事業	421	飼育管理技術の改善と水産用医薬品の適正利用を指導し、養殖衛生管理体制の整備を図る。	水産資源育成研究課、鈴鹿・尾鷲水産研究室	H15～
② 貝毒安全対策事業	31	貝毒による食中毒を防止するため、貝毒プランクトン出現動態と二枚貝毒化に関する知見の収集と蓄積を図る。	水圏環境研究課	H18～
(施策31402) 高い付加価値を生み出す水産業の確立				
●東紀州地域の水産業活性化総合対策事業費（水産資源課執行委任）				
① マハタの産地間競争力向上事業	862	マハタ養殖を東紀州地域に定着させるため、種苗の品質向上と、養殖マハタの身質向上のための技術開発を行う。	尾鷲水産研究室	H23～26
●持続的な水産物供給体制構築事業（水産資源課執行委任）				
① 生産者による自主管理型の貝毒モニタリング体制の構築	1,574	簡易なプランクトン採集法を利用した二枚貝の毒化予測手法の確立、コスト面や労力面で問題であるマウス試験の負担を軽減するための貝毒簡易測定法の実用化に取り組み、自主管理型貝毒監視体制の構築を目指す。	水圏環境研究課	H23～26
② 里海を創出する環境対応型黒ノリ養殖技術開発	599	黒ノリの病害診断や漁場栄養塩調査を行い養殖管理の指導・支援を行うとともに、環境変化に対応する新しい品種や高品質化技術の開発を行い、高温耐性種「みえのあかり」を生産者との連携によって普及させる。	鈴鹿水産研究室	H23～26
③ アオノリ養殖技術の高度化	64	採苗技術の改良や生産物の高品質化のための養殖技術を開発するとともに、新しい種のアオノリの養殖の導入を進め、アオノリ養殖の安定化を目指す。	水圏環境研究課	H23～26
④ 人工採苗によるヒジキ養殖技術の開発	110	採苗技術の改良や生産物の高品質化のための新しい養殖技術の開発を実施し、ヒジキの養殖の導入と安定化を目指す。	水圏環境研究課	H23～26
⑤ 新規疾病対策	495	養殖魚類の新規重大疾病（ヒラメクダア症、アワビキセノハリオチス症等）について、種苗生産時の病原体保有検査や養殖管理指導を行い、蔓延を防止する。	水産資源育成研究課、尾鷲水産研究室	H24～
●産学官連携「みえのリーディング水産商品等」開発事業（フードイノベーション課執行委任）				
水産物フードイノベーション推進事業				
① 伊勢まいい肉質改善向上研究開発事業	698	養殖マダイに海藻類、柑橘類、茶葉およびハーブ等を添加した飼料を給餌して飼育し、飼育成績や身質を分析し、鮮度保持効果や身質向上効果など、その付加価値向上効果を把握する。	尾鷲水産研究室	H23～26
② アサリ資源再生産モデル構築事業	217	アサリ母貝の生物資源再生産サイクルを構築するため、禁漁区にした母貝アサリ漁場モデルづくりを構築する。また、アサリ浮遊幼生の着底状況の実態解明研究とその後のアサリ育成状況の資源増殖管理を構築する。	鈴鹿水産研究室	H24～27
③ アサクサノリ復活生産モデル構築事業	220	アサクサノリ養殖株の特性評価を行うとともに、県内漁場で養殖を行う。	鈴鹿水産研究室	H24～27
水産技術クラスター構築による水産物高付加価値化促進事業				
① 水産技術クラスター構築による水産物高付加価値化促進事業	1,236	漁業、水産業の収益性向上のために、産学官で水産技術クラスターを構築し、連携して水産業に係る新しい技術の導入や水産資源の有効活用、付加価値向上に向けた取り組みを行う。	企画・資源利用研究課、尾鷲水産研究室	H23～27
●資源管理体制・機能強化総合対策事業（水産資源課執行委任・三重県資源管理協議会委託）				
① アワビ資源回復のための稚貝生育適地調査事業	420	アワビの幼生放流による着底稚貝の密度増大を実現するための技術開発を行うとともに、得られた技術を活用して着底稚貝の好適な生息環境を把握する。	水産資源育成研究課	H24～26
② 沿岸重要水産資源の増殖管理技術開発事業	580	沿岸漁業の重要種として増殖技術開発の要望が強いカサゴとナマコの栽培技術開発に取り組む。	企画・資源利用研究課、水産資源育成研究課	H25～28
③ イカナゴ資源管理推進調査	796	イカナゴの資源管理に資する調査に取り組む。	鈴鹿水産研究室	H24～
④ アサリ資源管理推進調査	891	資源管理のありかたを海域ごとに検討し、平成22年に作成した資源管理マニュアルを改訂する。	鈴鹿水産研究室	H26～
⑤ クロマグロ天然種苗(ヨコワ仔)の効率的利用に関する研究	501	クロマグロ若魚(ヨコワ仔)の養殖用種苗としての利用実態を把握し、捕獲および輸送作業場の問題点の抽出と改善策の開発を行う。	企画・資源利用研究課	H26～28
⑥ 資源管理に必要な情報提供事業	2,070	三重県沿岸の漁況に関する調査を行うと共に、漁況情報を関係機関に提供し、資源管理の推進を図る。	企画・資源利用研究課	H23～
●海女漁業資源増大対策事業費（水産資源課執行委任）				
① アワビ放流効果向上事業	2,463	効果的なアワビ種苗放流マニュアルの定着化の促進と、新たな漁場造成技術導入による放流効果を検証する。	水産資源育成研究課	H26～28
(施策31403) 自然と共生する生産性の高い水産業・漁村の構築				
●県単沿岸漁場整備事業費（水産基盤整備課執行委任）				
① 熊野灘浮漁礁技術活用促進調査	3,800	浮漁礁設置海域周辺の流動環境、魚群の網集状況等を調査し、浮漁礁の効果的な運用・活用方法を検討するための基礎資料を得る。	企画・資源利用研究課	H24～
●海女漁業等環境基盤整備事業（水産基盤整備課執行委任）				
① 人工藻礁におけるヒジキ増殖に関する研究	2,500	ヒジキ藻礁の設置によるヒジキの資源増大を図るとともに、ヒジキに適した人工藻礁基質を検討する。	水圏環境研究課	H25～27
② 造成アマモ場と二枚貝との関係に関する研究	2,000	アマモ場が有する水産有用種の生息機能の向上を定量的に把握し、造成アマモ場を用いた資源管理手法を提案する。	鈴鹿水産研究室	H21～27
③ 藻礁整備事業	700	海藻の生育と水産資源の棲みつきの両方に適した藻礁の構造について検討し、今後の藻礁整備技術に関する提言を行う。	水産資源育成研究課	H24～26
④ アサリ母貝場干潟造成効果評価事業	2,000	四日市市楠地先に造成される干潟と周辺域で、アサリの生息状況や生息環境、浄化能力を把握し、アサリ母貝場干潟の造成効果を評価する。	鈴鹿水産研究室	H26